

校長室だより

No. 13

平成28年7月1日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよしかず  
加藤嘉一

### みんなの運動場 ー梅雨の時期のジレンマー

体育祭が終わり、プールが始まると、運動場で体育をする場面が少なくなります。運動場には水はけのよくないところがあって、今は梅雨の季節でもあり、雨の後はそこがぬかるんでいたり、川のようになって地面が削られたりするところが目立つようになってきました。

一方で休み時間になると、外で遊べず我慢していた気持ちを解消するがごとく、乾いた場所を見つけ、ドッジや鬼ごっこをする子供たちの姿が見られます。新しいサッカーボールが各クラスに登場し、それで遊びたくて運動場に意気揚々と登場する子供たちもいます。気持ちは、とてもよくわかります。わたしも「おもいきり遊ばせてやりたい」という気持ちと、「運動場を大切にするための我慢する心は育っているか」と心が揺れます。

本校の運動場は、東西両サイドの地面がぬかるみやすく、やわらかい。雨が降った後は、中央辺りを見て乾いているなどと思っても、サッカーゴール周辺は土のゆるいことがよくあります。当然このときに足を踏み入れると、土はこねられて粘土状になるので、どんどん悪い状態になります。運動場の足跡を見た先生が、「大人も含め、運動場を大切にすることが昔より少し薄れてきている気がします」と気がついてくれました。



ソフト部の子たちは、毎朝内野の整備をだれかがしています。そのおかげで内野グラウンドはとてもよい状況。夜の学校開放で運動場を使うサッカーチームも、必ずレーキをかけて帰ってくれます。サッカーは、雨でも試合をする競技ですが、学校の運動場はサッカーのためだけの運動場でないことを理解してくれています。土の状況を一度悪くすると、よい状況にもどすのに大変な時間と労力、費用がかかります。

余談ですが、中学校に勤務していた頃、「運動場は、バスケットコートを少しずつ移動させるとよい」と言っておられた先輩の話を思い出しました。(現実には、野球部の位置等は固定せざるを得ないので無理なのですが) それは、狭い場所を選手がボールをドリブルして何度も走り回るのでコートが固くなるし、

しかも地面を平らにしておかないとプレーに支障が出るのでコート整備が必要です。何よりも、バスケット部の子供たちがコートを大切にします。(今は、バスケット部の多くが体育館で活動していると思いますが)

「運動場は、一部が乾いていても入れないときがあります。また、入れても、場所によっては足跡がついて、『あっ、土がゆるい。』と気がつくこともあるでしょう。そのときはそれ以上入らないでもとに戻り、乾くの待ちましょう。」と集会で話しをしました。みんなの運動場を大切にするとはどういうことかを考える子供たちに育ちますように。

### 本年度の重点努力目標 (先週の続き・最終)

○引き続きの取り組み  
☆の項目と網掛け部分  
が新規の取り組み

#### ウ ちゅうぶがだいすきな子を育てる

- ・本年度行われる市制100周年記念行事を核に、岡崎市と中部学区の歴史・伝統・文化を教材化し、学習活動を展開する。

☆市制100周年記念行事を生かした活動計画(地域行事・集会)

☆地域副読本「なのはな」改訂版の編集

- 地域交流センター悠紀の里を利用した学習(3年社会科)
- 学区の昔のくらしの学習(3年社会科・総合)
- 学区と占部用水の関わりでの学習(5年総合)
- 学区の未来を考える(6年総合)

- ・地域の人から学ぶ活動や地域の人とともにやる活動、地域の自然を見つめたり、自然の中で体験したりする活動を大切にする。

○地域教育ボランティア「ちゅらぼ」システムの充実(人的整備)

☆おやゼミの充実

- 社会科・総合的な学習の地域講師招聘(授業)
- 田植え・稲刈り・苗(さつまいも等)植え・収穫祭等の充実
- アイシン環境プログラムの参加(4年社会科・総合)
- まちたんけんの充実(2年生活科)
- 花育・FBC参加とデザイン募集全校参加(委員会・常時活動)

- ・学級活動、委員会活動、兄弟学級・六ツ美中保育園等との異年齢交流において、子供の主体的、意欲的な活動を展開する。また、六ツ美中学校との連携を図る。



○各活動組織が活用できる集会の時間の確保

☆ペア学年交流の研究(1・6年、2・5年、3・4年交流)

- 学年・委員会主催の縦割り交流(集会)
- 苗植え・収穫祭・避難訓練等保小中交流行事の充実